
未熟リンゴ

這沢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未熟リング

【Nコード】

N0863I

【作者名】

這沢

【あらすじ】

車窓越し、私は未知なる酸っぱい果実をかじった。

隣のバスに向かって、皆いつせいに手を振る。

私も思い切り手を振った。

小学校生活、最高の思い出になるかもしれない修学旅行。
出発時刻が近づいていた。

「いつまで手、振ってるの。一人だけ」

仲良しの子に言われて気が付いたが、ヤメられない。

向こう側も、こちらに伝えてアクションを起こすなか、一人だけ
手を振らない奴がいたのだ。

「アイツ絶対、気付いてて無視してるね。くそー、せめてこっち向
けっ」

ムキになって手を振る私に、周りの子らは呆れ顔だ。

「向かないほうに、百円……」

「じゃ、その反対に五十円」

「手、疲れない？」

「あきらめて、こっちでしゃべろうよ」

「だめだよ、この子。負けず嫌いに火がついてるから」

そうそう、私の仲良し、長年の親友。よくわかってるじゃない。

徐々に手の振りがオーバーになってきた私。向こう側が笑って吹
き出す様子がうかがえる。

さすがにアイツも何事かとこっちを見た。

『そう、あんたよ。あんたに手、振ってんの』

私はくちパクで、アイツを何度も指差した。視線とジェスチャー

で、もう無視は出来まい。

キヨロキヨロしながら『オレ?』と自分を指差し、大きく目を見開いて私を見た。

思わず笑みがこぼれる。

「見てよ、振り向かせてやった」

鼻息荒く、ガッツポーズを決める。向こうは勝負しているつもりなんて、さらさらないのだろうが。

勝利の余韻にひたりながら、私は車窓に目をやる。

そして、しきりに周りから突かれているアイツと目が合った。

「わっつつ」

思わずはじかれて座席に尻もちをついた。ずぶずぶと体が沈む。

「なんなの、あの表情。あれはナイよ」

さっきの顔がコバエのようにチラつく。くやしい……。対抗する顔が思いつかなかった。

記憶をかき消したくてタオルで視界を遮断する。

そして隅っこで丸くなっていた私は、車内の男子に「ヘンな女子」呼ばわりされるハメになった。

クラクションが鳴り、バスは静かに動き出そうとしている。

本日、快晴のよう。車内は騒々しい。秘密裏にお菓子交換や、ゲームなどが始まっている。

修学旅行は、これからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0863i/>

未熟リンゴ

2010年12月22日14時17分発行